

原子力防災について

小学生編

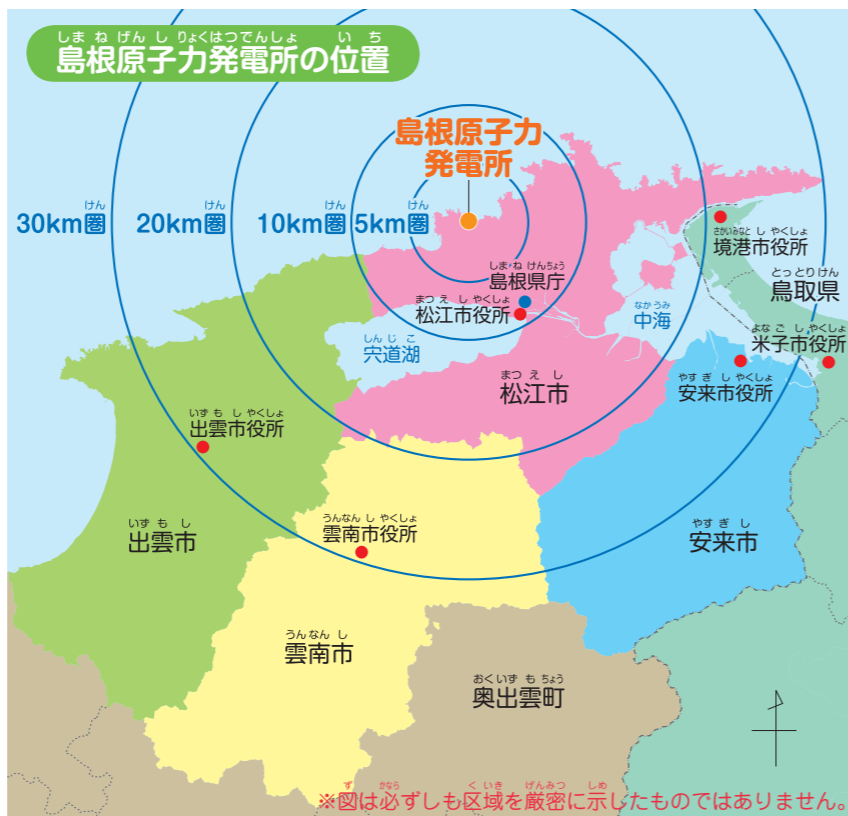
原子力発電所で事故がおこったとき、自分の身を守るにはどうすればよいでしょうか？もしものときに備えて基本的なことを学んでおきましょう。

1 島根県にある原子力発電所

島根県には、松江市鹿島町に中国電力の島根原子力発電所があります。

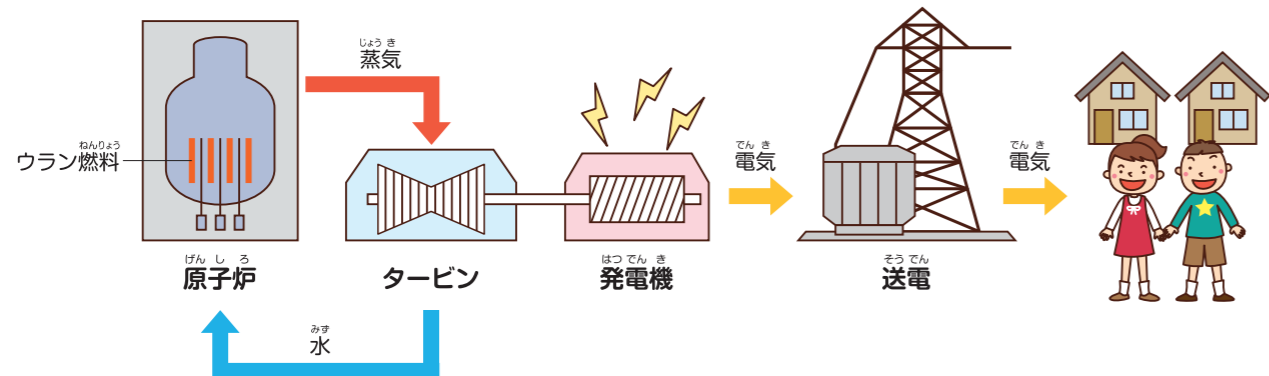


※1号機は運転終了、3号機は建設中です。



2 原子力発電のしくみ

原子力発電所では、ウランを燃料として熱を発生させ、この熱で水を沸とうさせて蒸気を出し、タービン(羽根車)と発電機を回して発電します。



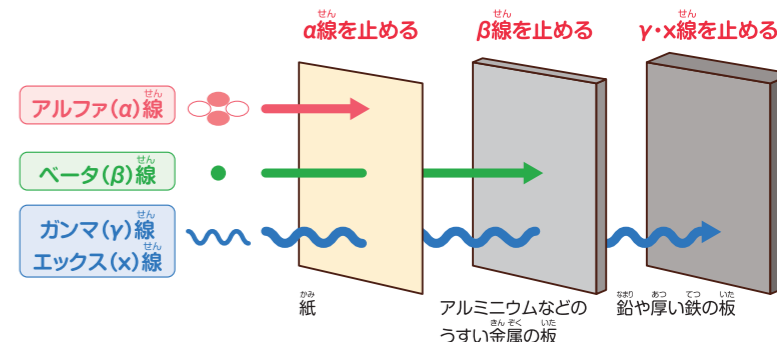
3 放射線や放射性物質ってどんなもの？

原子力発電機にはエネルギーだけではなく、放射性物質も出ます。放射性物質からは放射線が出ています。

放射線の特徴

- 見えない、におわないなど、体に感じません。
- 放射線にはいくつかの種類があり、種類によって物を通り抜ける力がちがいます。
- 専用の測定器を使えば、正確に測定できます。

放射線の種類と物を通り抜ける力



4 原子力災害はどんな災害？

原子力災害とは、原子力発電所の外に放射性物質がたくさん出ることです。たくさんの放射性物質を吸い込んだり、放射性物質から出る放射線をたくさん受けると体に悪い影響を与えます。

※放射性プルームとは、放射性物質を含んだ空気のかたまりが風によって煙のように流れる状態のことです。

※災害発生時のイメージ図 (放射性プルームは目に見えません。)



外部被ばくと内部被ばく

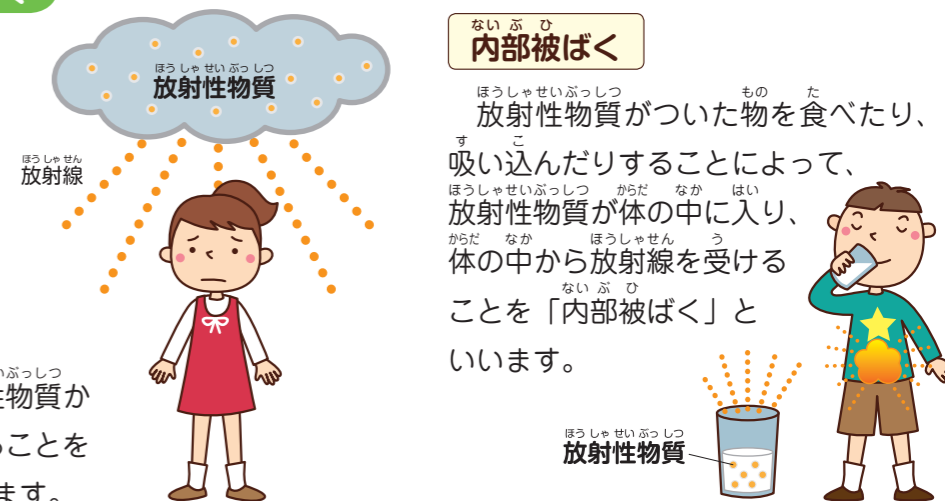
放射線を体に受けることを「放射線被ばく」といいます。

外部被ばく

体の外にある放射性物質から出る放射線を受けることを「外部被ばく」といいます。

内部被ばく

放射性物質がついた物を食べたり、吸い込んだりすることによって、放射性物質が体の中に入り、体の中から放射線を受けることを「内部被ばく」といいます。



5 事故がおこったときは

連絡をよく聞きましょう。



- あわてず、連絡をよく聞きましょう。外においても、市の広報車などが情報をお知らせします。
- 先生の話や校内放送・市からの放送・テレビなどで、どうすればよいかをたしかめましょう。

おちついて行動しましょう。



- 先生、警察官、消防士、大人の人のお話をよく聞いて行動しましょう。
- 家（学校）の中にいるのか、家族や学校の先生と一緒に遠くに逃げるのか、指示をよく聞いて行動しましょう。

屋内（教室や家の中）に入るよう指示が出たとき



- 外からの空気が入らないよう、窓やドアを閉め、換気扇などをとめましょう。
- 窓からは離れましょう。
- 外から帰ってきたら手や顔を洗い、衣服は着替えましょう。着替えた衣服はビニール袋に保管しておきます。



屋内に入るだけでも放射線を受ける量を少なくできます。

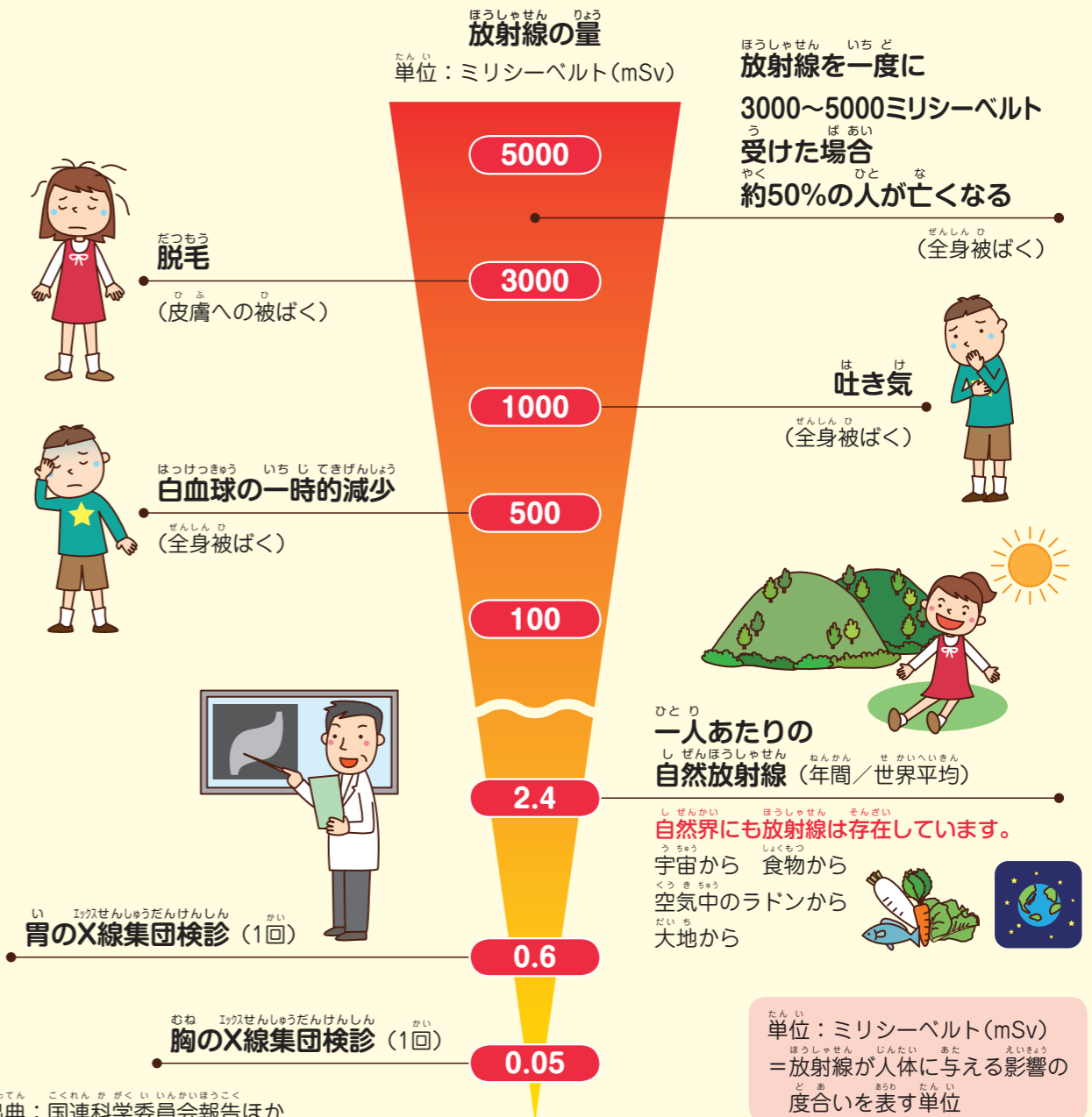
- 大雨・地震とちがひ、体には感じません。（見えない、におわない、肌には感じないなど）
- 被害の大きさが自分ではわかりません。

島根県や市の指示にしたがって行動することが大切です。

日常生活と放射線

放射線は、わたしたちの身のまわりにあるものです。自然界にある放射線は、誰もが生まれてからずっと受けつづけています。そして、健康診断でのレントゲン撮影など、放射線はわたしたちの暮らしにおいて、いろいろな場面で利用されています。

わたしたちが暮らしの中で受けている放射線の量は、とても少ないため健康に問題はありせん。ただ、たくさんの量を受けると健康に悪い影響を与えます。放射線について正しい知識を持つておくことが大切です。



出典：国連科学委員会報告ほか

島根県 防災部 原子力安全対策課

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地 TEL0852-22-5696 FAX0852-22-5930
ホームページ：http://www.pref.shimane.lg.jp/genan/
メールアドレス：gen-an@pref.shimane.lg.jp